

報告期間		ユーザー様名			S I 名・指導者名	
2006年 9月 12日(火)から		A 社様			株式会社電算	
2006年 9月 30日(土)まで					有賀 隆夫	
製品の内容、製品種類数、製品の単価(最高・平均・最低など)						
精密機器用部品製造(アルミ部品)、製品:500種類						
生産形態、工程の要素						
組み立て 機械加工 板金 プレス 溶接 塗装 メッキ 研磨 鋳物 鍛造 熱処理 実装、SMT 溶解 スリット 切断 溶断 成型 圧延 凝固 接着 食品加工 プラスチック加工 化学薬品 衣類(裁断・縫製・ホタ) 皮、ゴム、紙加工 織、編 印刷(除マニュアル等)・手書き 染色 エッチング その他( )						
指導種類	新規導入 バージョンアップ 再導入 その他( 運用上の問題解決 )					
今回指導回数	1回目～3回目					
TPiCSバージョン	3.1					
オプション・DB	受注販売、Oracle9i					
アイテム件数	800件	BOM	450件	所要量計算	1回/1日	製番展開 回/月
実績インプット	件/日	伝票発行	1回/日	伝票発行	件/回	製番展開 件/回
出席者	I氏、U氏、K氏					
<b>今回の指導目的</b>						
<p>1年前に稼動し、一見順調に運用してきたようであるが、現場においては必ずしも TPiCS から出力される伝票どおりの作業実績でなく、現場の作業者の判断で運用して、目で見える在庫を目安に伝票の選択的実績計上を行っており、本来 MRP で生成された伝票の指示に従わないにもかかわらず、あまり混乱なく業務が運用されていました。</p> <p>ただ、最近になって在庫精度の悪化や新規受注もないのに生産計画が生成されたり、逆に必要な部品の計画が生成されないケースが目だってきており、その調整を行う運用担当者の作業もかなり煩雑になってきたため再度 TPiCS の運用環境を調査し本来の運用に戻すべく、対応作業をお客様より依頼されました。</p>						
<b>経過(発言者と内容)</b>						
<p>データ内容調査作業およびお客様運用担当者との打合せ</p> <p>お客様 TPiCS 運用環境データを借用し、環境設定、各種マスタ、注残データを調査しました。</p> <p><b>【結果】</b></p> <p>・10ヶ月近く前から、“遅れ”データが残っていた。(出荷の遅れ、注残の遅れ)</p> <p>(システム上の背景)</p> <p>既存の販売管理システムから TPiCS の受注販売管理オプションに受注情報と出荷実績を定型一括機能で1日一回読み込むことで、データ連携をとってきました。</p> <p>受注情報の取り込みは、生産に関わることなので取り込みの際もエラーLOGを毎回チェックしマスタの不備など都度対応してきましたが、出荷実績はあくまでシステム間の連携なので</p>						

受注データさえ既に入っていればエラーはほとんど発生しないであろうという事で、取り込みエラーについては稼働後しばらくしてからはチェックしていなかった状況がありました。

#### 【遅れの原因】

(現時点では、具体的なシステム上の原因が特定できていませんが)システム連携上の問題で一部の出荷実績がうまく受注情報に対して消し込みされていなかった。

結果として出荷実績を別の販売管理システムでは計上しておきながら TPiCS に反映されていないものが存在し、運用担当がそれに気がつかないまま出荷の遅れとなって蓄積されていった。

一方、最終工程における製品完成実績が、タイムリーに TPiCS にインプットされない状況があった。

これは、製品が完成したと同時にほぼ当日出荷となるので、TPiCS に完成実績をインプットする前に販売管理システムから出荷伝票を印刷し、即出荷実績を入力することになる。その後 TPiCS に完成実績をインプットすればよいが、出荷が間に合うとインプットを忘れてしまう場合があった。

以上の2つの要因により、一時的に製品在庫のマイナス状態も発生したが、出荷実績の消し込み漏れと製品在庫の完成実績のインプット漏れが適度にバランスされていたため発見が遅れた。

中間品や購入品は、ある程度まとめて生産するため、上記の影響は人が作業実施の判断をしていた。

#### 【対応策】

##### 応急処置

- ・ 出荷遅れ、注残遅れの解消
- ・ 棚卸の実施により在庫の補正

TPiCS 上の全データを削除後、バックアップデータよりマスタ情報のみ戻し、棚卸による在庫情報と販売管理システムより正味の受注残情報を取り込み、所要量計算を実施しました。

この結果、既存の伝票情報との間で指示の乖離が起きたため、伝票は全て差し替えを行いました。

既存の伝票で着手したため、新しい伝票とは指示が完全に一致しない仕掛品については、相当する新しい伝票を使って実績インプットを行い、既存の伝票との数量差分は在庫対応実績で調整しました。

また、該当する伝票がない場合は、計画外実績でアイテム指定のインプットを行うこととしました。

その他、

- ・ 販売管理システムと TPiCS 間の出荷実績インタフェース機能の原因調査と不具合の対応
- ・ 不具合対応が済むまでは、日々のお荷実績取り込みのエラーログを逐次チェックする

## 結 論

#### 【結論としての恒久策】

- ・ 今回の問題は、今のところシステムの問題か、運用上の問題か特定出来ないため、その原因は引き続き調査を行いますが、問題の再発を防ぐため、以下のような恒久策を提案しました。

定型一括などの各種処理における LOG 確認の習慣付け

“遅れ”の管理の徹底:「出荷予定」「予定リスト」を毎日参照し、本来の業務上の遅れ以外の遅れを常にフォロー(いらぬものは抹消、必要なものは現実の納期設定など)することを業務の一貫として位置づける

TPiCS から出力される伝票、あるいは画面上の情報で運用を行う（個々の作業者の判断を入れない）					
教育を再度行う					
システムへの信頼を回復するための、マスタ情報の見直し（現場の作業に即したマスタ設定になっているか）タイムリーな実績情報の登録の徹底など並行して行う					
印刷された伝票上での人の判断による負荷調整や着手順を決めるのではなく、所要量展開後の生産計画上で調整を行ったり、信号機オプションによる着手順の判断など、基本的にシステム上で人の判断を反映させた運用を行うこととする					
*（その他）TPiCS 指導員の定期的な運用診断サービスの提案					
以上					
<b>検討事項・要回答事項・要継続審議事項</b>					
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
次回開催日（予定）		次回開催場所（予定）		議事録作成日	議事録作成者
				2006年10月1日（土）	有賀

Format1.1